



読者からの声

石川医報の「読者からの声」は、会員がいろいろな意見を交換する場です。
ぜひ、皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。
(編集部より)

女性医師の窓

金沢再発見

石川県立中央病院 初期研修医
大酢 由規

私は、生まれも育ちもここ金沢ですが、大学の6年間だけを愛媛県で過ごしました。

この春、無事大学を卒業して金沢へ戻って来ました。小さい頃からずっと住み続けてきた金沢でしたが、外に一度出てみて、改めてこの街の良さに気付けた気がします。

松山と金沢はともに人口五十万前後の地方都市です。両方とも街の真ん中にお城があります。金沢はもうすぐ新幹線が開業するとか、それに比べて四国は鉄道の便が本当に悪いです。そのかわり船が発達していて、こちらでいう高速バスに乗る感覚で船が利用されています。その昔、瀬戸内の水軍が活躍した土地柄からなのでしょう。実際に船に乗ってみると、意外に安くて早く着くので納得しました。愛媛からだど広島はもちろん大分にも簡単に行くことができます。

先日、愛媛出身で愛媛大学同期の友達が学会でたまたま金沢に来る機会があり、観光案内を務めることとなりました。しかし私は兼六園には小さい時に一度だけ、東茶屋街には行ったことすらないという有様で、にわか二人旅となりました(彼女もあの道後温泉に行ったことがないそうですが・・・道後温泉は湯質が素晴らしいので、松山にお立ち寄りの際は是非とも足を運んでみてはいかがでしょうか)。さて、いざ観光客として金沢を回ってみると、自分で思っていたよりも歴史的な文化財が多く残っており風情ある街並みに改めて感激しました。また、金沢は食べるものが本当に美味しいと思います。特に和菓子のレベルが高く、松山にもぼっちゃん団子や一六タルトがありますが、金沢の圧勝です。

一方で、愛媛はなんといっても温暖です。これから冬タイヤを用意しなければならない身の私は、前述とは別の愛媛県民の友達に、「なんで君達は雪かきに毎朝時間を取られ、苦労してまで雪国で生活してるの。愛媛にはまだこんなにたくさん陽の当たる土地がありあまっているのに。」と言われたことを思い出します。また土地の人々の性格を観察すると、雪の下で耐える自然環境に育つためなのか金沢人は根暗かもしれません。よく言えば真面目なのでしょうか。一方お祭り大好きな愛媛の人は明るい気がします。同じ四国の阿波踊りじゃありませんが、何かあっても取りあえず飲んで踊っちゃおうの人種です。患者さんの傾向もそれに準ずる気がします。

さて女性医師の目というお題からずいぶん離れてしまったので軌道修正します。学生時代に、女医の懇親会の席で、働いている女医さんの毎日の生活について伺ったことがあります。仕事と家庭の両立に皆さん苦労されており、周囲の理解、夫の協力、公的機関の利用、ルンバと乾燥機付き洗濯機の活用などが欠かせないと口を揃えて、話されていました。金沢でも同じようなことを耳にします。

さて私は今、県立中央病院の小児科で研修させていただいています。言葉も通じず、想定外の行動を突然始める子供たち。その手のかかることと言ったら大変です。

しかしながらその可愛い彼らを24時間休み無しで見守るママさん達のパワーは強力で、私は間近で母は強しと感じています。

数日前に育休給付金の引き上げの報道がありましたが、頑張るパパとママに少しでも良い生活環境が整備されることを祈ってやみません。